

須藤玲子：NUNOの布づくり Sudo Reiko: Making NUNO Textiles



須藤玲子：NUNOの布づくり

2.17—5.6 2024 水戸芸術館現代美術ギャラリー
[SAT] [MON] Contemporary Art Gallery, Art Tower Mitō

【展覧会概要】

展覧会名：須藤玲子：NUNOの布づくり

会期：2024年2月17日（土）～5月6日（月・振休）

開場時間：10:00～18:00（入場は17:30まで）

会場：水戸芸術館現代美術ギャラリー、広場

休館日：月曜日 ※祝日の場合は翌火曜日

入場料：一般900円、団体（20名以上）700円

高校生以下／70歳以上、障害者手帳などをお持ちの方と付き添いの方1名は無料

※学生証、年齢のわかる身分証明書が必要です

◎年間有効フリーパス →「年間パス」2,000円

◎学生とシニアのための特別割引デー「First Friday」

→ 学生証をお持ちの方と65歳～69歳の方は、毎月第一金曜日（3月1日、4月5日、5月3日）100円

主催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

企画協力：CHAT（Centre for Heritage, Arts and Textile）Hong Kong、Japan House London

後援：株式会社アダストリア

協賛：木内酒造株式会社

協力：サントリーホールディングス株式会社

企画：高橋瑞木（CHAT館長兼チーフキュレーター）

会場構成：アドリアン・ガルデル、たしろまさふみ

アーティスティック・ディレクション：齋藤精一（パノラマティクス主宰）

企画担当：後藤桜子（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

テキスタイルデザイナー須藤玲子とNUNOの活動を包括的に伝える大規模個展

テキスタイルデザイナー須藤玲子と、須藤が率いるテキスタイルデザイン・スタジオ「NUNO」の活動を紹介します。日本の伝統的な染織技術と現代の先端技術を組み合わせ、従来にない素材をテキスタイルに取り入れ、また産業の持続可能性にも目を向けるなど、テキスタイルデザインの分野において、NUNOは世界の第一線を走り続けてきました。本展では、日本各地の職人、工場との協働作業や、素材の可能性を広げるその取り組みについて、普段は見ることのできない布づくりの舞台裏を豊富な資料やマルチメディア・インスタレーションで展観します。NUNOの活動を包括的に伝える展示内容に加え、当館の空間を活かした大型インスタレーションを展開し、見る人の楽しい気持ちや好奇心をくすぐる、テキスタイルのもつ多彩な可能性に注目します。

本展「須藤玲子：NUNOの布づくり」は、2019年に香港のCHAT（Centre for Heritage, Arts and Textile）で企画・開催され、その後ヨーロッパ各地を巡回しました。日本国内では丸亀市猪熊弦一郎現代美術館に次いで、須藤とゆかりのある茨城県の水戸芸術館現代美術ギャラリーへと巡回します。



展示風景：「MAKING NUNO: Japanese Textile Innovation from Sudo Reiko」 Japan House London, 2021 ©Japan House London



展示風景：「須藤玲子：NUNOの布づくり」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2023 撮影：林雅之



展示風景：「須藤玲子：NUNOの布づくり」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2023 撮影：林雅之

【作家プロフィール】

須藤玲子（すどうれいこ）

1953年茨城県石岡市生まれ。株式会社布代表。東京造形大学名誉教授。

日本の伝統的な染織技術から現代の最先端技術を駆使し、新しいテキスタイルづくりをおこなう。作品はニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館、ボストン美術館、ロサンゼルスカウンティ美術館、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、東京国立近代美術館など、世界の名だたるミュージアムに収蔵されている。2022年第11回円空大賞受賞。



撮影：林雅之

【本展のみどころ】

1. テキスタイルデザイナー須藤玲子とNUNOの布づくりを包括的に伝える大規模個展

1983年テキスタイルデザイン・スタジオNUNOの設立に参加し、以来約40年間デザインディレクターとして創造性と実用性に富んだテキスタイルを生み出してきた須藤の活動は、その作品が美術館や博物館に収蔵されるなど、国内外で高く評価されています。

本展では、須藤の代表作を通してその創作の姿勢を伝えるとともに、NUNOのテキスタイルを世に送り出してきた日本各地の工場にも焦点を当て、「布づくり」を支える創造的かつ技術的なプロセスを包括的に紹介します。

2. NUNOの布が「出来るまで」 舞台裏を大公開

完成したテキスタイルではなく、デザインの源泉や制作過程からテキスタイルデザインに注目する、画期的な展覧会です。テキスタイルの生産工程や開発プロセスを豊富な資料で詳らかにし、NUNOのテキスタイルデザインの全貌に迫ります。

アイデアの着想源から原材料やドローイング、製作サンプル、職人との試行錯誤や生産の過程まで、普段見ることのできない布づくりの舞台裏を一挙公開。音や映像による演出で工場での生産の様子を再現したインスタレーションでは、「布づくり」のプロセスをハイライトし、臨場感をもって伝えます。

3. 展示室・広場を自由に泳ぎ回る「こいのぼり」

大空間を泳ぐ、色とりどりのNUNOオリジナルテキスタイルを用いたインスタレーション「こいのぼり」。同作は、展示空間のデザイン等で国際的に知られるアドリアン・ガルデールによって考案され、これまでに東京の国立新美術館（2018年）、ワシントンD.C.のジョン・F・ケネディ舞台芸術センター（2008年）、フランスのギメ東洋美術館（2014年）など世界各地で人々を魅了してきました。

今展では、磯崎新設計の当館現代美術ギャラリーと広場で、人々に楽しい気持ちや好奇心を喚起する「こいのぼり」を展開します。また、本展に向け、水戸藩に由来する染色技法「水戸黒」の再生に取り組む水戸市内の職人とともに、特別なこいのぼりの制作にも取り組んでいます。

制作協力：大谷屋染工場

水戸黒とは：

江戸初期、寛文年間から水戸藩に伝わる染色技法。藍の下地にヤシャブシで黒く染める「水戸黒」は、青みがかった独特の深みのある色合いが特徴的です。大正に入り化学染料の普及によってその継承が途絶えていましたが、1970年代以降、地元の人々の手によってその再現と継承が取り組まれています。

4. 磯崎新設計のシンボルタワーがテキスタイルに

水戸の街で特別な存在感を放つ磯崎新設計による美術館のシンボルタワー。今展では、須藤が磯崎へのオマージュとして、このタワーをモチーフにデザインした新作テキスタイルを初公開します。

【関連プログラム】

■ オープニング・トーク

日時：2月17日(土) 13:30～15:00(開場13:00)

講師：須藤玲子(出品作家)、高橋瑞木(CHAT館長兼チーフキュレーター)

定員：100名(先着順)

会場：水戸市民会館大会議室

■ NUNO・アット・ハート♡ ※要申込

NUNOのテキスタイルを使って、持参したシャツに胸ポケットやワンポイントをつけるワークショップ。日々身に着けるものにお気に入りの布を取り入れてみませんか。

日時：3月9日(土) 11:00～/15:00～

会場：現代美術ギャラリー ワークショップ室

定員・対象：各回先着20名、小学生以上

■ つぎつぎ布ワークショップ ※要申込

出品作家の須藤玲子さんによるワークショップ。作家本人によるギャラリートークの後、NUNOの布を使ってオリジナルのスカーフや風呂敷を作ります。

日時：4月20日(土) 11:00～15:00

会場：現代美術ギャラリー ワークショップ室

講師：須藤玲子

定員・対象：各回30名、どなたでも(4月1日申込〆切。申込多数の場合は抽選。)

■ 1/5こいのぼりをつくろう ※要申込

空間に動きをもたらす NUNOの「こいのぼり」。

こどもの日にちなんで、NUNOの布をつかった1/5ミニチュアこいのぼり(40cm程度)を作ります。

日程：4月28日(日)

会場：現代美術ギャラリー ワークショップ室

定員・対象：10名、小学生以上 (4月1日申込〆切。申込多数の場合は抽選。)

■ 担当学芸員によるギャラリートツアー

少人数にむけて、本展担当学芸員がツアー形式で展覧会を解説します。

日時：3月17日(日)、4月14日(日) 14:30～(約60分)

会場：現代美術ギャラリー

■ ウィークエンド・ギャラリートーク

市民ボランティアCACギャラリートーカーと一緒に対話をしながら展覧会を鑑賞します。それぞれの見方や感じ方を共有し、作品を味わいましょう。

日時：3月2日(土)より毎週土曜日14:30～(約40分) ※但し、予告なく中止となる場合がございます。

会場：現代美術ギャラリー

要申込のプログラムは2月17日(土)から申込開始。各種プログラムの参加費・申込方法等は当館ウェブサイト等でお知らせいたします。<https://www.arttowermito.or.jp/>

小学校2年生以下の参加は保護者が同伴してください。

その他、会場内でNUNOのテキスタイルを用いた触れるおもちゃの貸し出しやワークシートの配布など、展覧会をいっそう楽しめる工夫をご用意しています。

【同時開催】

■ クリテリウム100 沼田侑香

「クリテリウム」は、若手作家と当館学芸員が共同企画する新作中心の展覧会シリーズです。

今展では、インターネットが日常的に使用されるデジタルネイティブ世代に生まれ、二次元と三次元の領域と日常との関係性を、デジタルとアナログの観点から考察し作品を制作する沼田侑香を紹介します。

沼田は1992年千葉県生まれ、現在は東京と千葉を拠点に活動し、国内外で作品を発表しています。この度の展示では、国内外の移動を伴う自身の経験と、デバイスの普及によってさらに身近となったゲームの世界観から着想を得て、展示室内をホテルの一室に見立てた空間に変容させます。カラージュされたイメージの集積、アイロンビーズを用いた独特の手法により、現実とデジタル世界の乖離や重なりを考えさせるインスタレーションを展開します。

会期：2024年2月17日（土）～5月6日（月・振休）

会場：現代美術ギャラリー第9室

料金：展覧会入場料に含まれます

協賛：有限会社アジアシステムサービス

企画：畑井 恵（水戸芸術館現代美術センター学芸員）



《Living room》2022年
東京藝術大学修了展（東京）での展示風景
撮影：松尾宇人

■ 造形実験室

月替わりでさまざまな素材や技法を使って造形をたのしむ「造形実験室」。年齢を問わず、どなたでも参加できます。

日時：2月22日（木）、23日（金・祝）

会場：現代美術ギャラリー ワークショップ室

料金：無料 ※予約不要



■ 高校生ウィーク2024

高校生^{*1}のための展覧会無料招待企画として1993年にはじまった「高校生ウィーク」。展覧会と連動したワークショップや部活動など、さまざまなプログラムが行われる「カフェ」^{*2}をギャラリー内に設置し、その運営も若い世代が担ってきました。現在は対象を多世代にひらき、多様な人や価値観に出会う機会を提供します。下記プログラムをはじめ、期間中ギャラリーワークショップ室内に出現する「カフェ」で、ワークショップや読書、裁縫などさまざまなプログラムをどなたでも楽しめます。

会場では、手を動かしながら「須藤玲子：NUNOの布づくり」展出品作品の着想源に親しむドロップイン&ワークショップも。詳しくは当館ウェブサイトをご参照ください。

※1：高校生および同年代を含む ※2：飲物の提供の有無については新型コロナウイルス感染症拡大の状況などを鑑みて判断します。

会期：3月3日（日）～4月7日（日）

会場：現代美術ギャラリー ワークショップ室

料金：展覧会入場料に含まれます



【図 版】 展覧会広報用にデータを貸し出しますので、ご要望の方は鳥居までお問合せください。

1



2



3



4



5



1. 須藤玲子 & アドリアン・ガルデル 《こいのぼり》 2008/2019 (部分)
展示風景：「Sudo Reiko: Making NUNO Textiles」 CHAT (Centre for Heritage, Arts and Textile) Hong Kong、2019-2020
©CHAT(Centre for Heritage, Arts and Textile)Hong Kong
2. 《糸乱れ筋》に用いられるニードルパンチ機 (部分)
展示風景：「Sudo Reiko: Making NUNO Textiles」 CHAT (Centre for Heritage, Arts and Textile) Hong Kong、2019-2020
©CHAT(Centre for Heritage, Arts and Textile)Hong Kong
3. 展示風景：「Sudo Reiko: Making NUNO Textiles」 CHAT (Centre for Heritage, Arts and Textile) Hong Kong、2019-2020
©CHAT(Centre for Heritage, Arts and Textile)Hong Kong
4. 展示風景：「MAKING NUNO: Japanese Textile Innovation from Sudo Reiko」 Japan House London、2021
©Japan House London
5. 《カラープレート》の制作資料
展示風景：「Sudo Reiko: Making NUNO Textiles」 CHAT (Centre for Heritage, Arts and Textile) Hong Kong、2019-2020
©CHAT(Centre for Heritage, Arts and Textile)Hong Kong

6



7



8



9



10



11



6.須藤玲子《糸乱れ筋》2006年 撮影：林雅之

7.須藤玲子《アマテ》2000年 撮影：林雅之

8.須藤玲子《きびそ縞と筋》2008年 撮影：林雅之

9.須藤玲子《カラープレート》1997年 撮影：林雅之

10.須藤玲子《ジェリーフィッシュ》1993年 撮影：林雅之

11.須藤玲子《紙巻き》2002年 撮影：林雅之

プレス向け内覧会のお知らせ

2024年2月16日（金） 14:00～15:30 受付開始 13:30

場所：水戸芸術館現代美術ギャラリー

出席者：須藤玲子（出品作家）

後藤桜子（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

沼田侑香（クリテリオム 100 出品作家）

畑井恵（クリテリオム 100 企画担当・水戸芸術館現代美術センター学芸員）

【お問合せ】

水戸芸術館現代美術センター

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 Tel.029-227-8120/Fax.029-227-8130 <https://www.arttowermito.or.jp/>

展覧会について：後藤桜子（学芸員）

教育プログラムについて：森山純子、中川佳洋（教育プログラムコーディネーター）

広報・写真貸出について：鳥居加織（広報） e-mail:cacpr@arttowermito.or.jp

*詳細は公式X http://twitter.com/MITOGEL_Gallery でも配信いたします。

【記事掲載についてのお願い】

- 1) 掲載にあたっては、正式展覧会名称と会期の表記をおこなってください。
- 2) 写真を掲載する場合は、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- 3) 誌面掲載する電話番号は、水戸芸術館代表番号029-227-8111でお願いいたします。
- 4) 掲載記事とVTRは、資料として保管いたしますので水戸芸術館現代美術センター鳥居までご送付ください。
- 5) 取材及び収録等の取材は、必ず事前にお問い合わせください。都合により取材に応じることができない場合がございます。

【交通のご案内】

[JR] 東京駅（品川、上野発もあり）から常磐線特急で約72分～84分、水戸駅下車。
北口バスターミナル4～7番のりばから「泉町1丁目」下車。徒歩2分。

[高速バス] 東京駅八重洲南口バスターミナルのりばから高速バス「みと号」水戸駅行き
（赤塚又は茨大ルート）で約100分、「泉町1丁目」下車、徒歩2分。

[お車] 常磐自動車道水戸ICから国道50号線を水戸市街地方面へ約20分。
◎市営五軒町駐車場があります。
地下駐車場（217台）7:00～23:00
立体駐車場（283台）24時間
料金：30分まで無料、1時間まで200円、以降30分ごとに100円 1日上限700円

【お知らせ】

今後のプレスリリースの発行を郵送からメルマガ配信へと移行します。配信への移行を希望される方はメールアドレス・ご所属・ご氏名を cacpr@arttowermito.or.jp までご連絡いただくか、QRコードを読み込みの上、お申込みください。

